

論 文 要 旨

学籍番号	80833195	氏 名	酒井 仁
論文題目： システムズエンジニアリングを用いた我が国地方都市の魅力向上のための考察			
(内容の要旨) 日本の地方都市の多くは、現在も過疎化が止まらず、急激な高齢化と若者の転出が続いている。そのために、疲弊している地方都市が少なくない。 従来の研究では、地方都市に関しては、居住環境・生活環境・公共交通に関する研究が多く見られる。今後、日本国内全体で人口減少が避けられないとしても、過疎化やスプロール化することなく、ある程度コンパクトに市民を集約していくような地方都市が魅力ある都市であると考え、居住環境・生活環境・公共交通だけで都市に人が集まることを説明することは、難しいと考える。 本研究の目的は、この「地方都市の魅力」を向上し、その都市を活性化させる提案を行うことである。地方都市の人口が増加するかどうか、あるいは、減少しないかどうか、と言う尺度で測るのが良いと考え、居住環境に注目した従来研究と異なったアプローチで研究を行った。 その分析手法として、システムズエンジニアリング手法により、マインドマップ・特性要因図・共分散構造分析を用いて、「見える化」と「要因分析」を行い、各要因の重みや因果関係、優先順位の高さを導いた。 その結果をもとに、地方都市の魅力を向上させるのに効果的な具体的方法を考え、類似の実事例に基づいて、効果を考察した。 結果として、経済面に対する対策の重みが大きく、下記が導きだされた。 「地方都市魅力向上の主要4対策」 1) 生産年齢層に対して、経済面での地方都市の魅力向上（働く場の確保等）の対策 2) 少子化対策 3) 新しい都市交通システムの充実：自動車に依存しない都市交通システムの構築 4) 地方都市の人口が減少していくとするならば、その街をコンパクトにまとめ人口密度を下げない対策 一見、都市の魅力とは、街並みや景観に捉えがちであるが、そうではなくその街に暮らす人々が、働く場が確保されていてそれなりの所得があり、経済面でその都市が活性化していることが重要である。そして、それら働く人々の一家が安定して暮らし、子供を産み育てる環境づくりも、また重要である。さらには、自動車に依存しない都市交通システムの構築や、都市をコンパクトにまとめる方法が重要であるということも導き出されたが、このことは、働く人々に対しての魅力向上にもつながり、また子供を産み育てる環境づくりと兼ねられる、ということも分かった。			